

# ★ 授業のヒント

生活の中で大人も子供も、ことばを使った遊びを楽しんでいます。今回は、「カルタ遊び」と「三行ラブレター」の二つを取り上げます。

## テーマ “もっともっと”ことばで遊ぼう!

目的 もくてき
日本語のことば遊びを通して自分を表現する。 ことばで遊びながら楽しく学習する。
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
初級 後半～上級 しよきゅうこうはん じょうきゅう
クラスの数 にんずう
何人でも なんにん

お正月に楽しむ遊びに、カルタや百人一首があります。日本語教育教材としてもいろいろなカルタが発売されていますが、ここでは、学習者が自分で作ったカードを利用したカルタ遊びを紹介します。

### ◆カルタ遊び

#### <手順>

#### 1 カルタ遊びを理解する。

参考：『日本語教育通信46号』「授業のヒント：かなを楽しく覚えよう」を見てください。

(<http://www.jpfe.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/index.html>)

#### 2 カルタのカード（読み札と取り札）を作成する。

- 文には、単文と複文があること、複文とは、「日本語の授業が終わったら、近くに買い物に行きます。」のように、述語（下線部分）を二つ以上持つ文であることを確認する。
- 複文の前文に接続する語のうち、すでに習ったものを取りあげ、復習をする。

#### とりあげる接続する語の例

～前に、～あとで、～から、～ので、～が、～けれども、～とき、～たら、～と、～ば、～なら、～ても、～のに など

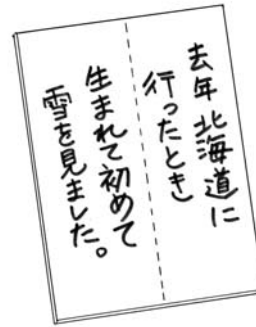
- 次のような複文の例を示し、適度な長さの複文を作成させる。ある程度の長さがあつたほうがおもしろく遊べる。

・ 去年北海道に行ったとき、

生まれて初めて雪を見ました。

- 学習者が作った文を集めて、文字や文法の間違いがあつたら教師が直す。
- カルタ遊びに必要な数のカードを作る。  
色画用紙（少し厚い紙）などを使って、例のように「読み札」と「取り札」を作る。

#### 読み札例



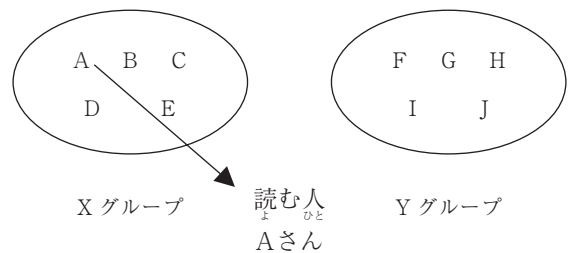
#### 取り札例



30分程度の時間で行うには、取り札は全部で50枚ぐらいが適当。ここでは、1クラスの人数が10人で、2つのグループに分かれて同時にカルタ遊びをする場合を紹介する。1人5つずつ複文を作り、それぞれの文について、読み札1枚と取り札2枚を作る。

#### 3 カルタ遊びをする。

- 10人の学習者は、5人ずつ2つのグループに分かれる。
- 2つの机やテーブルの上に10人が作った50枚の取り札をそれぞればらばらに置く。
- 1人ずつ順番に前に出て、自分が作った読み札（5枚）を読む。読む人はAさんの次にFさん、次にBさん…と2つのグループから交代で出る。



読み札を読む人は前半を読んだ後で少しポーズをおき、取る人が後半を予想する時間を与える。

取る人は、予想しながら取り札を探して取る。自分の読み札を読む時は、取り札を取ることができない。

- 全員が読み札を読んだら終わり。一番たくさん取り札を取った人が勝ち。

クラスメートが作った文を使って遊ぶカルタは、とてももりあがりますよ。予測能力、文法能力の訓練にもなるでしょう。

研修参加者のカルタカードの作品例  
けんしゅうさんかしゃのかるたカードのさくひんれい

- 日本語能力試験2級に合格すれば、  
毎月給料に1000円追加してもらえます。  
まいづききゅうりよう えんついでか
- 日本では、春になると  
川に沿って桜が咲きます。  
にほん はる かわ そ さくら さ



では次に「三行ラブレッター」ということば遊びを紹介しましょう。

◆三行ラブレッター  
さんぎょうらぶれたー

「三行ラブレッター」というのは、三行に分けて、60字程度の文字数で、自分の想いを書くラブレッターです。恋愛の感情を表すだけでなく、家族や友だちへの愛情や感謝の気持ちを書いてもいいですし、ペットや物に対する気持ちを率直に表現してもいいです。自分の感じているいろいろな想いを三行で書き表してみましよう。

日本語国際センターの2006年度長期研修参加者が作った作品の中からいくつか紹介します。

もし私は風だったら、  
誰にも見えないように、いつでも君に触れられる…  
どうして私は風じゃないの。  
(ウズベキスタンのVさんの作品)

風になっていつでも触れたいぐらい「君」に恋しているのですね。

熱帯国から今離れている私が  
この冬の寒さに耐えられるのは  
君と子供たちの温もりがここまで届いたから  
(インドネシアのFさんの作品)

遠くからでも家族の愛情に支えられている  
おかげで、真冬の生活でも我慢できるんですね。

太鼓を叩くと、ドンドン。  
雨になると、雷がゴロゴロ。  
友達のあなたに会うと、ドキドキ。  
(ベトナムのHさんの作品)

「あなた」に会ったときの気持ちを、擬音語・擬態語を使ってユーモアたっぷりに表現していますね。

慣れないと、短くまとめて表現するのは学習者はかなり難しいでしょう。でも、制限された形式(=不自由さ)の中で、自分でいろいろ考えて工夫して表現する(=自由さ)のがことば遊びのおもしろさと言えます。授業では、(1) 三行に分けて書くこと、(2) 字数は60字ぐらいにすること、(3) 自分の気持ちを書き表すことの3点を強調して指導するとよいでしょう。

作品ができたら、それぞれが好きな作品をクラスで投票してみるのもいいでしょう。

2006年度の長期研修のクラスでは、下の作品が最優秀賞に選ばれました。

あなたの三味線※の三線と私のヴァイオリンの四線  
なんとも言えなく美しいよね！  
言葉で言えない気持ちを楽器で言わせてね。  
(ニュージーランドのスミス・クリスティーナ・フィオーナさんの作品)

「あなた」と「私」で二人一緒に作り出す美しいメロディー。  
きれいなラブレッターですね。



※日本の伝統的な楽器。  
弦が三本ある。ギターに似た形。

「心に響く三行ラブレッター」というコンテストが毎年開かれています(主催:日本語文章能力検定協会)。1999年から始まったこのコンテストは、すでに第10回を数えています。小学校以下の部から、中学、高校、一般の部と分かれています。短いことばでの確に気持ちを伝える表現力を養うために、授業で取り入れる学校も増えているそうです。

募集は毎年11月から1月にかけておこなわれます。さあ、皆さんのクラスでもぜひ「三行ラブレッター」を作って、応募してみてください。

参考

日本語文章能力検定協会  
<http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>